子育てかわら版 第18号

園長だより124号復刻

過去の園長だよりです 平成19年6月15日発行

怒るべきか、怒らないほうが良いか

本園の教育方針は『子供を褒めて育てよう』ですが、それを子供を怒ってはいけないというように考えて、深刻に悩んで相談に来たお母さんがいました。「自分の子供ですから、遠慮なく怒ってください」と答えるとほっとしたように「怒ってもいいんですね」と安心して帰っていきました。

怒るべきか、怒らないほうがいいか悩むところかもしれませんが、我々凡人には怒らない子育ては出来ないと思っています。

結論から言うと『子供の伸ばしたい能力、やったほうがいいことは褒めて育てる、やってはいけないことは 怒ってでもやめさせる』と考えて下さい。

一般的には怒る人のほうが多いと思いますので、 怒らないようにと言うことが強調されるのだと思

います。せっかく良いことをしているのに、小さな欠点を見つけて、そのことに小言を言ったり、怒ったりしては良いことをしようとしている芽を摘んでしまいます。経験が少ないから上手に出来ないとか、物事の良し悪しがまだ判断できないから間違ったことをするかもしれません。小さなことは大目に見ましょう。後で出来るように

なったり、気がついたりしたらそのときに褒めてあげましょう。褒める材料を後に残しておくのもお母さんの子育てのテクニックの一つでしょう。

SIあそびのカードは正方形ではなく、縦と横の 長さがほんの少し違っています。始めのうちは縦横 かまわずに貼っていてもそれで良しとしています。 そのうちに縦横のほんの少しの長さの違いにも気 がついてシートに書いている四角にぴったりに貼 れるようになります。そのときに「四角にぴったり 貼れたね」と褒めてあげます。気がついて、出来る ようになったときに褒めてもらったほうが効果があります。

怒らないで育てることが出来たらそれにこした ことはありませんが、怒らない子育てに欠点はない のでしょうか。

もし、何をしても怒られなければ、自分のやっていることはいいことだ、少なくとも悪いことではないと大人に認められたと理解するでしょう。そうすると善悪のけじめがつかない子供にしてしまいかねません。この線を越えたらいけませんという境目ははっきりと知らせましょう。その範囲内では全てを子供に任せましょう。そうすることによって、自分で判断し、決断の出来る子供を育てることになります。

全てを子供に任せ、子供の気づきを待ったほうが本人の力になると考えている人も少なくないようですが、それではとても時間がかかるのと、正しい結論に導けないことが懸念されます。 やってはいけないことを大人の責任できちんと導くことは必要です。

また、感情的に怒ることはまったく悪いことかというとそうでもありません。人間は感情の動物であって、機嫌がいいときもあれば悪いときもあります。すなわち、皆がいつもニコニコしてくれるとは限りません。怒った人に対する対処の仕方も学習しなければならないでしょう。

さらに、怒り方にもいろいろあると思いますが、大きな声を出してガツンと怒る人もいれば、静かに落ち着いて、ものの道理、何がいけなかったかを説明するようにじわっと怒る人もいます。子供の立場に立つと、静かであろうと、怒られていることに変わりはありませんので、長々と怒られるのは恐怖にさらされる時間が長くなっ

てとても怖いのです。むしろガツンと怒られて短時間に終わった方が、恐怖感がないかもしれません。 とは言うものの、最近の子供達はお父さんに大きな 声で怒鳴られる経験がないのでしょうか、大きな声 自体に恐怖を感じる子も少なくないようです。

どの方法が良いか悪いか考えるばかりではなく、どちらにしても子供の経験することですから、子供には何らかのプラスになっていると思って、ケースに合わせてどちらも自信を持って行うと良いでしょう。間違いに気がついたら修正すればいいのです。

